

第14回環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門）
採点基準①－6（生物多様性報告特別優秀賞）（平成22年版）

環境報告書としてすぐれていることに加えて、生物多様性に対する取り組みに関する記述に優れた報告書。

1. 方針.....MAX 20
「3」 影響を分析し、生物多様性基本方針を制定している、等
「2」 環境方針のなかに記述がある、等
「1」 生物多様性に取り組む方針がうかがえる、等
「0」 記述なし
2. 目的・目標.....MAX 20
「3」 本来業務での生物多様性について数値化された目的・目標が明確に記述されている、等
「2」 本来業務での生物多様性について定性的ではあるが目的・目標がかかげられている、等
「1」 生物多様性に関してフィランソロピーとしての目標等がかかげられている
「0」 記述なし
3. 体制.....MAX 10
「3」 本来業務について生物多様性に対する責任部署・権限が明確にされている、等
「2」 一応本来業務で、各部門があつかうことが記載されている、等
「1」 フィランソロピー部門で扱っている
「0」 記述なし
4. 実施—1.....MAX 15
「3」 SCMを含め、ライフサイクルを通じて生物多様性対応している、等
「2」 3R等に配慮し、循環資源の利用・活用に配慮している、等
「1」 実績の公表がある、等
「0」 記述なし
5. 実施—2.....MAX 15
「3」 事業活動に伴う生物多様性への影響を評価し、ミティゲーション、オフセット等の手段を講じていることの公表、等
「2」 工場や施設及びその周辺での生物多様性保全についてのさまざまな活動及びその公表、等
「1」 いくつかの実績の公表がある、等
「0」 記述なし
6. その他 NPOとの協働、ABS取組、植林等のフィランソロピー、等.....MAX 10
「3」 大変すぐれている
「2」 普通
「1」 劣っている
「0」 記述なし
7. 総合評価.....MAX 10
上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

以上